

事業所名

児童発達支援センター カナの家

支援プログラム

作成日

令和7年

2月

13日

法人（事業所）理念		キリスト教の愛の精神に基づき、「ともに生きる あなたとわたし」を合言葉に利用者一人ひとりの人格と意思を尊重しつつ、安全に十分配慮した、質の高い医療と介護を提供し、地域福祉の向上に努めます。			
支援方針		①からだづくり リトミックや遊び、活動を通して身体を意識する。身体が使いやすくなる。②なまかづくり お友達に関心を持って楽しく遊ぶ経験をする。協力すること、ルール、コミュニケーションを学ぶ。③のびるちから 認められる、褒められる。やったらできたを経験する。自分の良さを知る。チャレンジする勇気を持つ。④いきるちから 生活する力、話す力、聞く力をつける。こんな時どうしたらいいの？を学ぶ。⑤えがおのいばしょ 本人もきょうだも家族みんなが笑顔。関係機関と連携する。			
営業時間		9 時 0 分から 16 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり	
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	健康的な生活を過ごすことができるよう、子どもの健康チェックや検温を行い体調管理を行います。些細な変化に目を配り、適切な対応を行います。食事、睡眠、排泄、衣服の着脱、身支度、片付け等の生活スキルを身につけることで日常生活に必要な力を育てます。その中で過ごしやすい環境を整え、食具の持ち方や排泄のタイミングや一日の生活の流れなどを伝えて身に付くように支援します。			
	運動・感覚	運動遊びやサーキット、リトミック(リズム遊び)、感覚統合器具などの粗大運動から指先遊びやカプラ、製作でのハサミやシール貼り等の微細運動を取り入れた活動を行い、正しい身体の使い方を身に付け、感覚統合を促します。			
	認知・行動	発達段階に合わせたわかりやすいスケジュール表を活用し、一日の流れを理解して行動ができるよう支援します。個別活動等で、一人ひとりの発達段階に応じた課題を提供し形や数量、重さや長さに対して興味関心を持ち理解する力を育てます。こだわりや過敏さに配慮し、生活や活動の中で入ってくる情報に対応できるように支援します。			
	言語コミュニケーション	言語以外にも意思表出できるツールを使用し、気持ちや思いを伝え人とのやりとりの楽しさや嬉しさを感じられるよう支援します。言葉の遅れがある児に対しては、職員とのやり取りや読み聞かせなどたくさんの言葉に触れてもらう機会を作り発語を促します。一人ひとりの発達状況に合わせて、文字に触れる機会を作り興味関心を持ってもらうことで読み書きへの意欲を育てます。			
	人間関係社会性	遊びや活動を通して、職員や友だちとのやりとりや一緒に遊ぶことの楽しさを感じてもらい、その中でルールを守ることの大切さを伝えます。できないことに対してスモールステップで達成感を味わい、意欲につなげることで「やってみよう」の気持ちを育てます。わかりやすくルールや決まりごとを伝え、守ることの大切さを伝えます。			
家族支援		親子保育の保護者対象に月1回の勉強会(レモンの木)を行っています。年長児保護者、年中、年少児保護者を対象に勉強会を行っています(各年1回)年2回の保護者面談と、保護者からの希望があれば随時面談を行っています。	移行支援	地域の園や医療機関、保健センター等の関係機関と情報共有や連携を行い、移行や就学について保護者の相談支援を行っています。	
地域支援・地域連携		利用児の関係する医療、リハビリテーション、保健センター、他事業所等の関係機関との連携を図り、情報共有するとともに保育所等訪問支援事業を通じて地域の園との連携も図ります。	職員の質の向上	職員の質向上のため、月1回の勉強会を実施しています。他に法令で定められた研修や、質向上や資格取得のため外部で行われている発達に関する研修等に参加しています。	
主な行事等		遠足(春・秋)・夏まつり(法人主催)・運動会・クリスマス会・保護者勉強会・卒園式			